

218. いしなぎ(オオクチイシナギ)

初めて当魚を見かけたのは、何年前だったか、もうすっかり忘れてしまった。週一回程度足を運ぶ鮮魚店(卸)の氷台に横たわっていた。いしなぎ(オオクチイシナギ)と直ぐに認識できたが、当時は、まだ新素材が立続けてに入手できた時期だった。つまり、「いしかわ旬の鮭だより®」の素材集めの駆け出しの頃だったことから、「また、次に見かけ

秋



漆器製造・提供 夏未夕漆鮭(かみゆうしりょう)

た時に調達しよう」と購入を控えた。それから数か月後にもまた見かけたが、その時は、別の強く入手を切望していたターゲットが見つかり、歎びに耽り「また今度にしよう」と今思えば、痛恨の極みに至る残念な行動をとってしまった。その時には、それから数年間全く出会えないことを微塵にも予想しなかったし、できなかった。この件を教訓に、それ以降は「あっ」と思ったら「即、購入」を心掛けるようにしている。

素材集めも数年経過すると新ネタが枯渇し、いよいよ飢餓状態に陥る。日増しに当魚に対する「しまった」の想いが募り、一度、その店の店長さんに尋ねたが「ないね」とにべもない返答であった。予約が出来るはずもなく、それから数年「今日はあるか・・・」とただただ待ち続けるしかない日々が過ぎていくだけとなってしまった。続く・・・